

『豊太郎が意識のない時に、相沢がエリスに伝えた』というストーリーについて

<テーマ設定理由>

なぜこのテーマを選んだかという、このストーリーが最も印象に残り、疑問として残る場面だったからである。

この場面は、残酷な結末と、大きく関わっている一つの出来事であると言える。もし豊太郎が、直接エリスに伝えていれば、ここまでエリスを追い込み、精神的に壊れてしまうという状況から逃れられたかもしれない。しかし、なぜ作者はこのストーリーにし、残酷な結末を引き起こす必要があったのかと、とても疑問に感じたので、このテーマを選んだ。

<結論>

このストーリーは、豊太郎の一貫した弱い人間性により生じていて、無責任さを表している。また、残酷な結末を導く出来事ではあるが、厳しい現実であっても受け止め、真の自己をもつことの大切を伝えるために、重要な場面であると考ええる。

<本論>

一つ目は、豊太郎についてである。

豊太郎は、意思を持たず、決断力の無い弱い人間である。このストーリーも、豊太郎が最後まで、自分自身で決断できない様子を表しているのだと思う。

友人に対してでさえ否とすることができないのに、自分に対して信頼と愛情を寄せているエリスに、彼女を捨てて日本に帰りたいなどということを伝えることが、豊太郎にできるはずがなかったのだろう。

また豊太郎は、自分の更正に熱心になってくれた、親友でもある相沢を憎むことになる。これは、相沢がエリスに伝えたことで、全てを相沢の責任としてとらえ、エリスが壊れたことから逃げていく様子が表されているのだと思う。エリスに対して、美しく愛して止まない存在だと考えていたが、後に「哀れなる狂女」などと表現していることから、責任から逃避していることが分かる。

「エリスが生ける屍を抱きて千行の涙を注ぎしは幾たびぞや」とあるように、責任から逃れることで、エリスへの愛情は変わることはないという、豊太郎の思いもあるのだと思う。エリスへの愛情が失せていたときもあったが、エリスに対する謝罪を回避できたことで、最後までエリスを愛しているという思い出を残せられたのであろう。そして、生ける屍となったエリスだからこそ、責任から逃れている豊太郎は、安心して抱けるのであろう。

責任から逃れようとすることで、自分自身の良心や、エリスへの愛情は変わることはないという、豊太郎の思いも表されているのだと思う。

このように、豊太郎の弱い人間性により、このストーリーは生じていて、無責任さを表す場面であるといえる。

二つ目は、結末との関わりについてである。

「我が脳裏に一点の彼を憎む心今日までも残れりけり」という最後の本文からも分かるように、一点というのはこのストーリーのことであり、舞姫の結末には、大きく関わっていて重要な場面だということが分かる。

このストーリーは、舞姫の残酷な結末を引き起こす一つの原因となっていることは確かである。もし豊太郎が、直接エリスに伝えていれば、ここまでエリスを壊すこともなく、残酷な結末にはならなかったのではないだろうか。しかしあえて、作者はこのような結末を書いたが、私もこの結末が舞姫の結末として合っているのではないかと思う。

先に述べたような、最後まで変わることのなかった、豊太郎の弱い人間性は、たくさんの人を巻き込み、傷つけることになってしまった。

このような状況を示すことで、私たちに真の自我を持つことの大切さや、他者に自分の意思を伝えることの大切さを伝えたかったのだと思う。

また、このストーリーが導いたエリスのパラノイアも、この結末として必要なのではないだろうか。

「我は許すべからず罪人なり」ともあるように、豊太郎は、意思をもたない自分自身をこう表現している。これは、自分自身の人間性による苦悩を表し、エリスを裏切ったことは罪深いことであったということが分かる。

変わりはてたエリスを見て、涙を流す豊太郎の様子から、ここで初めて今までの自分自身の生き方や性格を、憎む様子が分かる。自分自身による苦悩を、エリスのパラノイアによって初めて実感することになったのだろう。そして、その苦悩がエリスのパラノイアという形として残ることで、これからも自分で自分を憎むことになるのだろう。それぐらい罪深い責任だったということが表されている。

豊太郎は責任から逃れようとしたが、その責任は罪深いものであり、自分自身の苦悩は消えることがないということを表す上でも、必要であると思う。

エリスは、豊太郎に裏切られたという事実を受け止めないで、発狂という形で現実から逃れた。また豊太郎も、他人に決断してもらうことで、出世と愛情とを選択しなければならない現実から逃れた。

これは、厳しい現実を受け止めることをせず、逃避している様子が表されている。何かを得ることで、犠牲にしなければならないことが生じてしまうという現実を表す上では、残酷な結末が必要であったのだと思う。

このように、このストーリーは残酷な結末を導くことになったが、私たちにこのようなことを伝えるためには、必要であったのだと思う。

<結論>

このストーリーは、豊太郎の一貫した弱い人間性により生じていて、無責任さを表している。また、厳しい現実であっても受け止め、真の自己をもつことの大切を伝えるために、残酷な結末を導く出来事として、重要な場面であると考ええる。